

# 総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成28年度)

## 2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(6/8)

	評価区分(※)	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
			目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
たたらの里山再生特区 (雲南市)	正	3.2	3.3  <u>進捗度</u> ・人口の社会動態 59%  ・まちづくり活動に参画する市民の割合 95%  ・市民参加型林地残材搬出量 90%  ・コミュニティビジネス売上高 73%	3.3  <u>規制の特例等</u> ・農地取得に係る下限面積要件の緩和  等  <u>地域独自の取組</u> ・森林バイオマスエネルギー事業の推進等  ・地域づくり活動等交付金	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域コミュニティを地域振興の起点に据えた取り組みは他地域にとっても参考になり、高い評価を与えることができる。市民による残材の搬出、コミュニティビジネスの取り組みなどは他の中山間地域にも適用することができる。</li> <li>・定量的指標としては成果として現れにくい取り組みであるが、地域自主組織における6次産業化、生活支援サービス、コミュニティビジネス、指定管理受託等の多面的取組は極めて重要であり、この機能を維持強化していくことが地域の持続可能性を左右するともいえる。</li> <li>・新たな計画に基づく評価であるが、いくつかは旧評価項目を継承している。評価指標によって評価することが難しいものがある。行動と成果が強く関連しているような評価が望ましい。</li> <li>・「人口の社会動態」は、徐々に社会増に転じることを目標としているが、進捗度が165%となった平成27年度に対し、平成28年度実績の進捗度は59%にとどまった。僅か1年で社会情勢に大きな変化があったとは考えづらいが、その分析内容は一般的で両年の差異を説明するものにはなっていない。</li> <li>・財政・税制・金融支援の積極的活用についても、必ずしも活発であるとは言えない。</li> </ul>

※「正」とは平成28年3月末までに計画が認定された地区の評価、「準」とは平成28年3月末時点では計画が認定されていない地区の評価を意味する。